

後援会だより

第 28 号

2019 年 9 月 30 日発行

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

- ごあいさつ
後援会会長・・・・・・・・・・・・・1
法文学部長（後援会顧問）・・・・・・・・・2
- ゼミ紹介
人文学科（産業・組織心理学ゼミ）・・・・・・・・・2

- 令和元年度後援会総会（第17回）・・・・・・・・・・・・・3
- 就職状況・・・・・・・・・・・・・4
- 平成31年度決算・令和元年度予算・・・・・・・・・・・・・6
- 令和元年度後援会役員一覧・・・・・・・・・・・・・6

後援会会長ごあいさつ

法文学部後援会会長 南 芳浩



本年度の総会で会長としての承認をいただきました、南と申します。微力ではありますが、会員や学生の皆様にとってよりよい事業活動ができますよう精一杯取り組んで参りますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

さて、7月4日に行われました本年度の総会は直前に九州を襲った大雨の影響で直前まで開催が危ぶまれました。昨年度も豪雨のため中止となったことから、2年連続の中止は避けたいとの思いで天候の回復を祈っておりました。無事に開催できてほっと胸をなで下ろしたところでした。

鹿児島はシラス台地など特殊土壤がある等の地域特性のため、風害、水害等の発生が多く、その被害を受けやすいといわれています。その分、防災対策は手厚くハード・ソフト両面の整備が進んでいると聞いていますが、災害から身を守る最初の一步はやはり各人それぞれの普段からの心がけではないかと思います。気象情報を始め行政機関から出される情報を敏感に受け止めそれに沿った行動をすることが自分の身を守る最善の方法ではないでしょうか。特に一人暮らしのお子様をお持ちの会員の皆様には、鹿児島の災害の特性とそれに対する心構えと一緒に確認する機会を持っていただきたいと、

総会前の降り止まない雨空を見上げながら考えることでした。

さて、事務局の御尽力にもかかわらず後援会入会者数が思うように増えていない状況のようです。同じ研修に行くのに助成を受けられる学生と受けられない学生がいると思いついた企画がしにくいでしょうし、何より学生の意欲にかかわってくると思います。1・2年時の助成事業を増やすなど対策も考えていただいていると思いますが、まずは、多くの方に後援会の趣旨と事業内容をよく理解していただくことが大事ではないかと考えます。会員の皆様にはいろいろな機会に後援会について話題にさせていただき、お誘いいただければありがたいと思います。

また、総会は年1回開催される事業活動の方向性を決める大事な会です。よりよい事業運営のために多くの方に参加いただいて御意見をいただきたいと思っています。さらに、総会の後の懇親会は、先生方や他の保護者と情報交換ができ、お子様の学生生活の一端を垣間見ることができ大変貴重な得がたい機会です。

次回は、より多くの方に御出席いただきいろいろな意見や情報が交換できればと思っています。来年度の総会・懇親会で皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。



法文学部長ごあいさつ

法文学部長（後援会顧問） 高津 孝

平成29年度、法文学部は20年ぶりに教育システムを大幅に見直しました。その際に、学びを活かす活用性を養成する「アドバンスト科目」を充実させました。例えば、鹿児島市役所の全面的協力のもとに、鹿児島市の実際のまちづくりを学び、学生独自の視点から具体策の提言を行う「まちづくり論」、県内13社のマスコミの協力を得て新聞作成の現場を体験し、高校野球予選の取材も行う「マスコミ論」、十分な事前学習を行った上で、台湾、韓国、カナダ、イランなどの地域を短期間現地訪問する「海外異文化体験実習」です。今年度から、これに「観光学」という科目が新しく加わりました。法経社会学科の石塚孔信教授によってコーディネートされたもので、「観光振興と地域経済」「観光関連産業の現状と課題」「旅行市場の動向と新しいビジネスへの挑戦」「世界文化遺産」「観光と宿泊」「観光と食」「国際観光とインバウンド」「観光行政」「大隅の観光地域づくり」など大変魅力的な授業が準備されています。先日、教員同士が授業を相互評価する制度を利用して、「観光学」を受講する機会がありました。講師は、合同会社「Go! Kagoshima」代表の門田晶子（かどた・あきこ）先生で「観光とコミュニケーション」という授業でした。門田先生は鹿児島出身で、高校からアメリカに留学し、現地で20年間仕事をされたのち、いま鹿児島でグローバルビジネスに必要なコミュニケーションのお手伝いをする会社を運営されています。授業は、学生に目を瞑らせ、自分がソウルにいて、ハングル（韓国文字）が読めない中で何か食べたいと考えてみてください、ということから始まりました。こうして、外国人にとっては自分に理解できる言語での説明板がいかに重要かということを確認させ、次に、門田先生の知人で日本語の全くできないイギリス人に一万円をわたし、鹿児島の観光に出かけてもらったらどういう問題が起こったのかを具体的な現場写真を示しながら説明してくれました。その後、学生たちに、ではどうすれば鹿児島を観光都市として充実させていけるのかをグループ討論の



形で考えさせ、発表させました。大変面白い授業で、学生たちに今、鹿児島の抱えている外国人観光客受け入れの問題点が何かを十分に理解させる授業となっていました。これも、大学の授業が様々な工夫を凝らし能動的なものに変化してきている一例と言えます。

ゼミ紹介 ～人文学科心理学コース（産業・組織心理学ゼミ）～

人文学科准教授 榊原 良太

心理学コースでは、3年生からゼミに所属し、専門的な学びを深めていきます。1学年あたり4～5人までの少人数制で、文献講読や実験・調査、学外での活動を通じて、最終的には質の高い卒業研究を行う力を養っていきます。ゼミごとに様々な特色を有していますが、ここでは産業・組織心理学ゼミの活動について、簡単にご紹介いたします。

産業・組織心理学とは、主に「働く」ことに関する人間の心理・行動について研究する分野です。労働者のメンタルヘルス不調による離職・休職の問題や、キャリアの多様化などにより、近年特に注目されている心理学の一分野です。また、「働く」ということには様々な心理的活動が関与しますので、一見「働く」とことは無関係に見える現象についても、広く研究の対象となります。

ゼミでは、学生がそれぞれ興味を持った論文を見つけて、それを発表し、全員で議論を行うという活動をメインに行っています。ただし、論文は必ずしも産業・組織心理学に関するものではなくてもOKです。それは、上記の産業・組織心理学という分野の特徴のほか、「自分で興味のあることを見つけて、それを自分で探求していく」ということが、卒業後に社会で「働く」学生にとって、



写真：学会でのポスター発表

大切な力になると考えているからです。そのため、毎年卒業研究のテーマは実に多様ですが、興味のあることを試行錯誤しながら研究することを通して、学生が大きく成長していく姿を見ることができます。

昨年は長崎で行われた学会に4年生と参加し、研究発表を行いました。最初は学会での発表に不安を感じていましたが、当日は堂々たる姿で発表を行うことができ、大きな自信となったようです。今後も機会があれば、学会などの学外のイベントに積極的に参加していきたいと思います。

令和元年度後援会総会(第17回)

令和元年7月6日(土)に第16回法文学部後援会総会が開催され、保護者・教職員等あわせて73名が出席しました。総会では、高津法文学部長による挨拶の後、①会長の選出、②役員の選出、③平成30年度事業報告(案)、④平成30年度決算および監査報告、⑤令和元年度事業計画(案)、⑥令和元年度予算(案)について審議が行われ、原案通り承認されました。

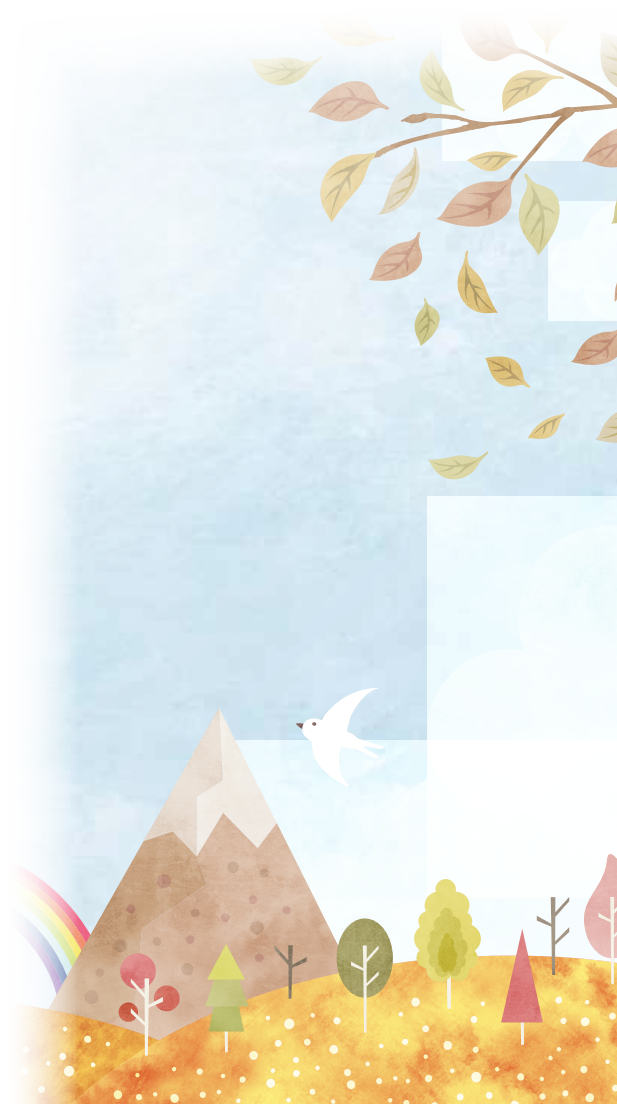
次に報告事項として、北崎常任理事から令和元年

度法文学部後援会への入会状況が説明され、引き続き昨年度の就職状況について報告が行われました。

最後に、後援会が行う教育研究活動への支援事業に関する理解を深めていただくため、支援を受けた学生たちが活動体験報告を行いました。今年度は、経済情報学科・法経社会学科学生による「ヨーロッパ社会研修」の報告と、人文学科学生による「人文地理学ゼミ夏巡見」の報告が行われました。パワーポイントを効果的に使用した報告で、学生の日頃の学習・研究の様子がよく分かるものでした。

総会終了後の懇親会には、保護者・教職員あわせて55名の参加があり、大学生活や教育内容、就職状況等について、活発な情報交換が行われました。昨年は豪雨の為に総会が中止となってしまいましたが、その分を取り戻すかのような賑やかな懇親会でした。

皆様のおかげをもちまして、令和元年度後援会総会は盛況のうちに閉会いたしました。来年もたくさんのご出席をお待ちしております。



今年3月に卒業した平成30年度卒業生の就職率は、前年度のパーセンテージに比べて2.1ポイント減の90.7%となりました(表1)。また、民間企業・公務員の比率は、民間66.7%、公務員33.3%となりました(表2)。前年度のパーセンテージより公務員が3.2ポイント増加しており、公務員就職が増加しています。また民間の就職先は情報通信業への就職者が最多で、以下金融業、小売業、卸売業となっています(表4)。

就職地域別では鹿児島県内が36.5%、鹿児島県を除く九州が33.7%で九州内が全体の約7割を占めています(表3)。グラフはありませんが、九州・沖縄地区の高校出身者で見ると53%ほどが出身の県で就職しており、九州・沖縄地区の高校出身者の74%が九州・沖縄地区内で就職しています。多くの学生が出身地に近い地域で就職している状況が推察されます。

有効求人倍率の高さが報道される昨今ではありますが、一方で若者の離職率の高さも指摘されているところです。労使双方にとって不幸なミスマッチングを減らすために、早めの就業意識の育成と積極的なインターンシップの活用が提唱されています。就職委員会では、貴会の支援により「就職活動体験報告集」と「インターンシップ体験報告集」を毎年発行することにより、多くの学生の就職活動に役立てています。

学生に代わり御礼を申し上げますとともに、お願いがございます。本年度も貴会の支援により就職活動に係る交通費の補助も行っております。昨今の鹿大生の特色である最低限の労力による卒業や取り組みという多数派の傾向は、残念ながら、健在です。もちろん何事にも積極的に取り組み、多くの視野と知識を身につけながら周囲の人達の信頼を集めていく優秀な学生達もたくさんいます。労力温存主義の学生さん達も、全国的な傾向の中では、情もあり礼儀もわきまえしっかりとした判断力を備えた優秀な人材ばかりです。しかし、せっかくの機会です。学生のご家族であられる会員の皆様におかれましては是非、忙しい中での処理能力アップの機会、社会勉強の1つとして、交通費補助の申請手続きを勧めていただければと思います。受付は法文学部の学生係です。学生達は皆場所を知っています。

また、大学側に内定したのに情報を寄せてくださらない学生さんがいるようです。現場の先生達から、理想とは違う就職の場合ではというご指摘や、面倒に思っていたり忘れていたかもしれない学生にも内定していないのではと思うと声を掛けたいという指摘もあります。

人によってこだわりや理想はそれぞれです。どのような場合であっても、後輩の多くにとっては価値のあるデータとなります。卒業に際してもぜひ、先輩達が残してくれた情報に思いを馳せつつ義務感をもって状況を報告して欲しいと思っております。

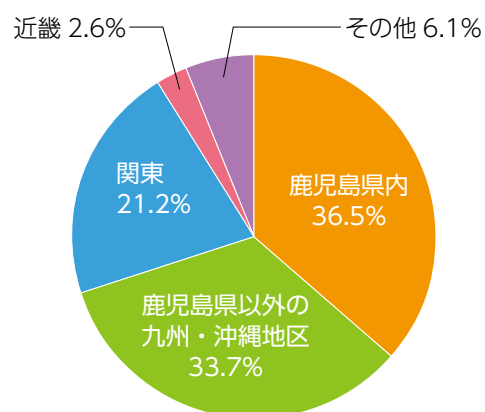
1. 平成30年度卒業生の就職率 (5月1日現在)

学 科	法 政 策 学 科	経 済 情 報 学 科	人 文 学 科	合 計
就職希望者数	77人	133人	134人	344人
就 職 者 数	72人	123人	117人	312人
就 職 率	93.5%	92.5%	87.3%	90.7%

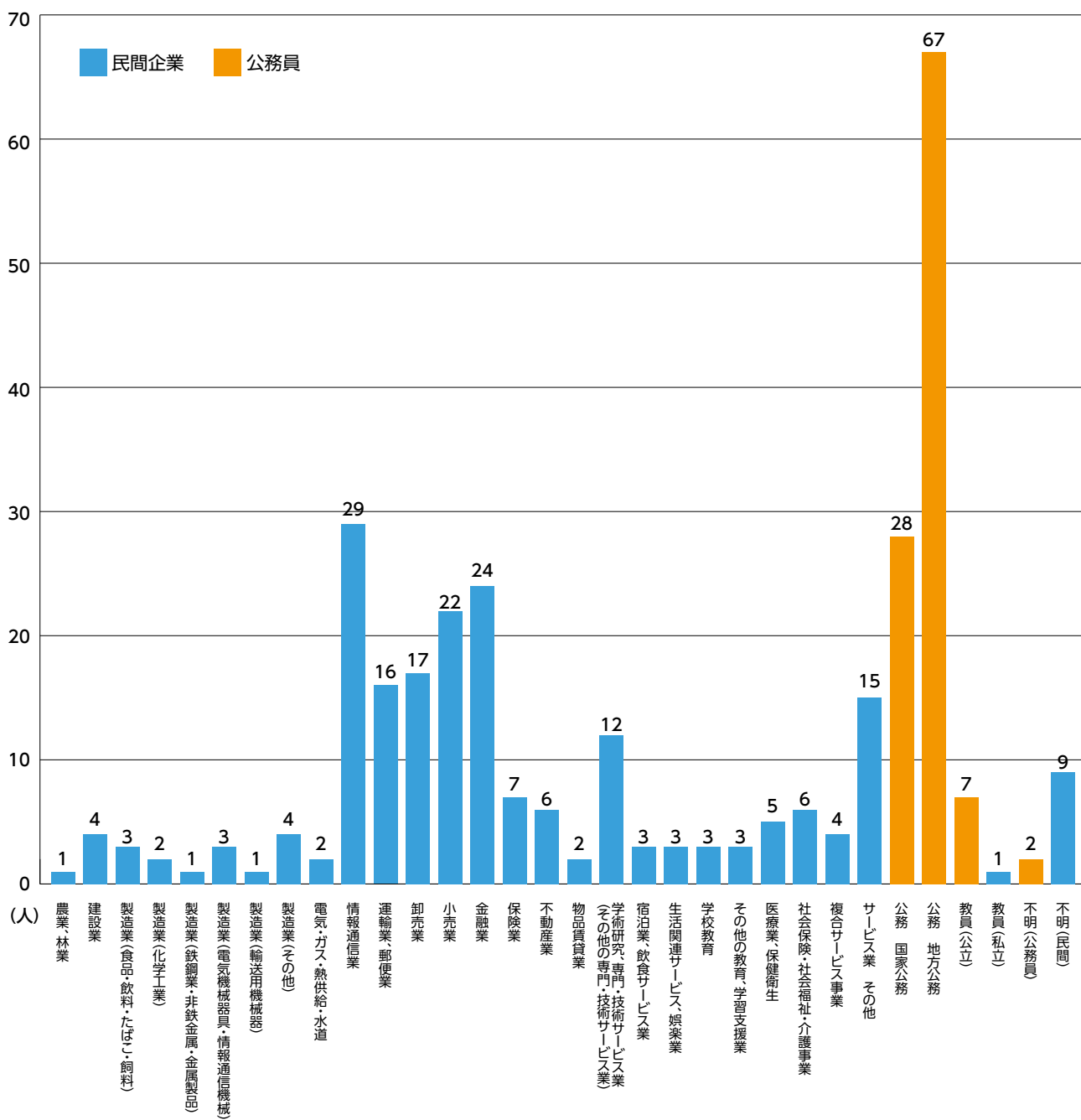
2. 平成30年度卒業生の公民別就職状況 (5月1日現在)

学 科	法 政 策 学 科		経 済 情 報 学 科		人 文 学 科		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
公 務 員	33人	14人	15人	8人	11人	23人	59人	45人
民 間 企 業	15人	10人	43人	57人	11人	72人	69人	139人
合 計	72人		123人		117人		312人	

3. 平成30年度卒業生の地域別就職状況



4. 平成30年度就職者数(312人)の産業種別内訳



平成 30 年度決算・令和元年度予算

【平成30年度 法文学部後援会決算】

会計期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日（単位：円）

		予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	概 要
収入項目	① 正会員会費(A+B-C)	5,575,000	5,860,000	285,000	正会員数×5,000とほぼ一致
	A 前年度返還準備金	12,210,000	12,210,000	0	前年度決算の返還準備金と一致
	B 本年度振込額	4,865,000	5,435,000	570,000	本年度新入会員数×20,000円(大学院生は10,000円 or 15,000円)
	C 本年度返還準備金(※)	11,500,000	11,785,000	285,000	本年度解散があった場合にも返還に支障のない最低準備金
	② 特別会員会費	504,000	504,000	0	教職員加入者数×8,000円
	③ 賛助会員会費	0	0	0	同窓会員会費
	④ 雑収入	200,000	72,600	△127,400	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息
支出項目	⑤ 前年度執行残余	3,664,543	3,664,543	0	前年度決算の執行残余金額と一致
	(1) 本年度執行可能額合計(①+②+③+④+⑤)	9,943,543	10,101,143	157,600	本年度支出しても次年度以降の返還に支障のない金額
	⑥ 事業費(a+b+c+d+e)	5,566,000	3,566,153	△1,999,847	
	a 学生の就職環境に関する事業	1,518,000	1,110,972	△407,028	就職支援運営費、就職セミナー・講演会経費、就職ガイダンス参加学生交通費補助等
	b 学生及び教職員の教育研究活動に関する事業	1,952,000	765,871	△1,186,129	学生の国内外実習・研修旅費補助、留学単位修得支援、大学院生の学会発表支援等
	c 学生及び教職員の福利厚生に関する事業	35,000	37,362	2,362	学生レクリエーション行事経費補助等
	d 学部等の運営・教育環境の整備に関する事業	1,161,000	748,520	△412,480	学部長と学生との懇談会経費、卒業生・修了生卒業祝賀会経費支援等
	e その他本会の目的を達成するために必要な事業	900,000	903,428	3,428	保護者と教員の懇談会、後援会日より印刷費、新入生オリエンテーション実施経費等
	⑦ 事務運営費	1,250,000	1,053,699	△196,301	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	⑧ 会議費	350,000	283,420	△66,580	懇談会経費(参加者から徴収)、後援会総会のお茶代等
	⑨ 予備費	200,000	0	△200,000	
	(2) 合計(⑥+⑦+⑧+⑨)	7,366,000	4,903,272	△2,462,728	本年度執行金額
	(3) 本年度執行残余(1)-(2)	2,577,543	5,197,871	2,620,328	期末執行残余
	(4) 本年度執行可能額合計(2)+(3)	9,943,543	10,101,143	157,600	
	(5) 次年度繰越額(C+(3))	14,077,543	16,982,871	2,905,328	期末通帳残高と一致するべき金額

※返還準備金とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

【令和元年度 法文学部後援会予算】

会計期間：令和1年4月1日～令和2年3月31日（単位：円）

		令和1年度予算	平成30年度予算	前年度差額	概要
収入項目	① 正会員会費(A+B-C)	5,520,000	5,575,000	△55,000	正会員数×5,000とほぼ一致
	A 前年度返還準備金	11,785,000	12,210,000	△425,000	前年度決算の返還準備金と一致
	B 本年度振込額(※1)	4,865,000	4,865,000	0	本年度新入会員数×20,000円(大学院生は10,000円 or 15,000円)
	C 本年度返還準備金(※2)	11,130,000	11,500,000	△370,000	本年度解散があった場合にも問題のない最低準備金、計算の根拠は別紙明細表を参照
	② 特別会員会費	504,000	504,000	0	教職員加入者数×8,000円
	③ 賛助会員会費	0	0	0	同窓会員会費
	④ 雑収入	200,000	200,000	0	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息
支出項目	⑤ 前年度執行残余	5,197,871	3,664,543	1,533,328	前年度決算の執行残余金額と一致
	(1) 本年度執行可能額合計(①+②+③+④+⑤)	11,421,871	9,943,543	1,478,328	本年度支出しても次年度以降の突発的な返還に支障の出ない金額
	⑥ 事業費(a+b+c+d+e)	5,028,000	5,566,000	△538,000	
	a 学生の就職環境に関する事業	1,361,000	1,518,000	△157,000	就職支援運営費、就職セミナー・講演会経費、就職ガイダンス参加学生交通費補助等
	b 学生及び教職員の教育研究活動に関する事業	1,717,000	1,952,000	△235,000	学生の国内外実習・研修旅費補助、留学単位修得支援、大学院生の学会発表支援等
	c 学生及び教職員の福利厚生に関する事業	40,000	35,000	5,000	学生レクリエーション行事経費補助等
	d 学部等の運営・教育環境の整備に関する事業	1,040,000	1,161,000	△121,000	学部長と学生との懇談会経費、卒業生・修了生卒業祝賀会経費支援等
	e その他本会の目的を達成するために必要な事業	870,000	900,000	△30,000	保護者と教員の懇談会、後援会日より印刷費、新入生オリエンテーション実施経費等
	⑦ 事務運営費	1,250,000	1,250,000	0	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	⑧ 会議費	350,000	350,000	0	懇談会経費(参加者から徴収)、後援会総会のお茶代等
	⑨ 予備費	400,000	200,000	200,000	
	(2) 合計(⑥+⑦+⑧+⑨)	7,028,000	7,366,000	△338,000	本年度執行予定金額
	(3) 本年度執行残余(1)-(2)	4,393,871	2,577,543	1,816,328	期末予定執行残余
	(4) 本年度執行可能額合計(2)+(3)	11,421,871	9,943,543	1,478,328	
	(5) 次年度繰越額(C+(3))	15,523,871	14,077,543	1,446,328	期末通帳残高と一致するべき金額

※1 予算資料作成時点での既知の数値を活用。期中に加入があった学生の会費については前年度執行残余の活用によって調整する。

※2 返還準備金とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

令和元年度後援会役員一覧

会 長：南 芳浩
副 会 長：有蘭弘一
顧問：高津 孝
常任理事：北崎浩嗣
理事〔保護者・社会人学生(本人)〕：
(法経社会学科) 南 芳弘、詫摩朋子
(人文学科) 末吉公子、竹内喜恵
(人文社会科学部) 寿 洋一郎
(臨床心理学研究科) 有蘭弘一

理 事〔教 員〕：
(法経社会学科) 平井一臣、小栗有子(～9/30)、
農 中 至(10/1～)
(人文学科) 小林善仁、横山春彦
(臨床心理学研究科) 稲谷ふみ枝
監 査：川崎 伸一、澤田成章
監 事：大園久裕

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話099-285-7510 (7602) FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp 後援会ホームページ <http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/>